

国家グループ 新教育システム創造会議

Positive Learning Program ～子どもの個別最適な学びの実現～

Action! sheet

<運動の背景・目的>

① 実施背景

学びへの向上心と物事に主体性を持った人財育成に向けて、一人ひとりの個性や潜在能力を十分に引き出していく個別最適な学びが必要とされている。

② 実施目的

一人ひとりが求める個別的で個性的な教育の仕組みにより、自らの人生やより良い社会を創造していくために必要な資質と能力の醸成を目的とする。

<運動推進のステップ>

理想とする未来

多様な子どもたちに、学びの個別最適化と地域を巻き込んだ学びにより誰一人取り残されない教育と学びが提供できる学習環境が整備されている未来。

01

発掘 フェーズ

- ・まずは子どもと関わることから。大人も楽しく話すだけで子どもたちは笑顔になる。

02

創出 フェーズ

- ・子どもとの音声データを生成AIで分析。フィードバックを確認。
- ・どういった関わり方が子どもにとって良いのか理解し、次に繋げる。

03

発信 フェーズ

- ・対話の繰り返しで興味関心を引き出していく。
- ・子どもが本当にやりたいこと、知りたいことは何かを探求していく。

04

定着 フェーズ

- ・地域企業、団体等と協力し、子どもがしたいことを実験してみる。
- ・地域社会が関わることの重要性を理解し、主体的に行動する。
- ・周囲を巻き込み、継続的に子どもと関わる。

運動
実行

必要に
応じて
軌道
修正

<パートナー、アドバイザー>

- ・東京学芸大学 教育インキュベーションセンター長 教授 金子 嘉宏 氏
- ・NPO法人フリースクール全国ネットワーク 代表理事 中村 尊 氏

PLPスタートアップチームを組閣し、会議体の運動推進のフィードバックや課題解決に向けた協議を行う。

<サマーコンファレンスまでの成果>

① 運動としての成果

未来に繋がる共育宣言を10の企業、行政、LOMが行うこと。30ヶ所の教育機関でPLPの継続実施もしくは新規導入。

② 地域の変化

企業、団体、行政、LOMが子どもと積極的に関わる意識が高まり、子どもの伴走者として主体的に行動すること。

Gian Pocket

誰でも地域に合った運動の構築ができる!
運動の推進議案をチェック

gian pocket



ACTION!

どうしたらいいかわからない!を解決する
相談・サポートの申し込みはこちらから!
日本JC の会議委員会が、2026年に向け
ての運動構築方法をサポート!

